

令和7年度 自己評価・学校関係者評価 報告書

学校番号 48 学校名 土岐商業高等学校

社会的役割等 (スクール・ミッション)	地域や企業等と連携・協働した学びを推進する商業高校として最新の専門知識と実践的なビジネススキルの修得を通して地域について考え、支えることができる人材の育成を目指す学校		
学校教育目標 (教育方針)	1. 職員と生徒が一体となり、あらゆる教育活動を通して、質実剛健・明朗闊達な校風を樹立します。 2. 望ましい職業観を育成とともに、誠実・勤勉で人間性豊かな産業人を育成します。 3. 普通教育と商業に関する専門教育との調和のとれた指導を通して、生涯にわたって、創意をはたらかせ、進歩向上を図るために基礎的能力を育成します。		
3つの方針 (スクール・ポリシー)	どんな生徒を育てたいか 【G.P】	◎「将来(先)を見据え、今すべきことを前向きに考え、挑戦・行動できる土岐商生」 ・学びに貪欲で、考えをもって失敗を恐れず挑戦し、継続的に行動できる生徒 ・豊かな心と自身をもち、他人を思いやり、共同・協働し、自分で考え行動できる生徒 ◎「商業を学び、地域貢献を大切にできる土岐商生」 ・商業に関する専門性を活かし、問題解決に対して主体的に行動できる生徒 ・地域とつながり、卒業後は即戦力のある人財として、地元や社会への貢献ができる生徒	
	生徒をどう育てるか 【C.P】	・基礎・基本となる学力の定着を図り、学ぼうとする意欲を向上させ、ICTを活用しながらコミュニケーション能力と発信力を育成する専門教育 ・各種資格取得を目標とし、学科・コースを自ら選択した上で取り組む専門的な学習 ・地域を含む外部との連携で、実社会の課題を知り、できることを考え実行していく機会を体験する「探究的な学び」を推進	
	どんな生徒を待っているか 【A.P】	・本校の校風と商業に関する専門的な学習や部活動に関心があり学びたい生徒 ・高校生活の中で具体的な目標を定め、積極的に取り組み、挑戦したいという意欲のある生徒 ・地域と関わる機会があれば自ら進んで参加し、校内では共同・協働の機会である部活動や生徒会活動を通じて、より良い社会の礎となるために考えて行動できる生徒	
学校の抱える課題	・定員が充たされるだけの入学者を確保できていない。安定した生徒数の確保のため、よき伝統を守りながら魅力ある学校を作り、発信力を高めること。 ・高校卒業後の進路を決定するだけでなく、生涯にわたり「学ぶ」ことの重要性を理解させ、体系的な探究学習の構築が必要であること。 ・本校の良き伝統を守りつつ、商業高校生として必要なビジネスマナーを大切にし、「生きる力」と「豊かなこころを持つ」生徒を育成すること。		

年 度 目 標			
領域 分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標

領域 分野	3つの方針・具体的な重点目標の達成に必要な具体的な取組・方策	県教育振興基本計画での位置付け	達成度の判断・判断基準あるいは評価指標	年 度 末 評 価 (自 己 評 価)			
				取組状況・実践内容評価項目の達成状況等	評価 A.B.C.D	成果と課題	総合評価 A.B.C.D
学校経営	中学生及びその保護者に本校の魅力を伝える機会を増やし、HPやSNSによるタイムリーな情報発信を行う。	施策IV-20	学校評価アンケート項目【生徒2、保護者等2】(90%以上の肯定的評価)	・タイムリーな情報発信については、各部活動や商業科においてInstagramを使用した。 【(生) 46.5%、(保) 88.4%】 ・地域イベントでの販売実習や吹奏楽部の演奏、土岐市役所と連携した高校生マルシェの企画、地域で活躍している専門家を授業の講師として招くなど、地域との繋がりを大切にした取組を実施した。 【(生) 78.4%、(保) 80.0%】 ・クラウド上でデジタル媒体を活用することで業務の効率化を図る取組を実施した。	B	○情報発信については、Instagramが有効活用できている一方で、HPが更新されていないなど、HPの運用面に課題が残る。 ○地域イベントへの参加の他、依頼のあった中学校への出前授業、中学校の先生方との交流など中学校との交流もPRの場となった。 ▲業務の効率化を図るため、Microsoft Teamsの活用についての職員研修を実施したが、情報共有に留まっているため、今後は、有効活用に向けての取組が必要である。	
	地域イベントへの積極的参加、講演会の機会を増やし、繋がることを大切にした心の教育の充実を図る。	施策I-1	学校評価アンケート項目【生徒9、保護者等11】(90%以上の肯定的評価)				
	地域イベントや出前授業等、対外的なPRの場を積極的に設ける。	施策I-4	令和8年度の入学者				
	業務の効率化を図り、分掌の垣根がない集団となるよう努め、職員が心身ともに健康で勤務できるよう職場環境改善を図る。	施策IV-28	年度末の反省内容				
学習指導	I C T 機器を活用した授業と効果的な運用(探究学習)により、生徒の状況に応じた学びの充実を図ります。	施策II-9	学校評価アンケート項目【生徒10、保護者等12】(90%以上の肯定的評価)	・各教科でICTを活用した授業に取組み、考える授業や交流活動など探究学習を取り入れた。 【(生) 76.3%、(保) 52.4%】 ・課題研究(3年)、探究(2年)で探究学習を進め、設定したテーマについて学びを深め、生徒が主体的に活動できるように努めた。 【(生) 90.0%】 ・コース縦割り集会を実施し、目指す姿を明確に伝えた。簿記週間の実施など資格取得に向けて重点指導を実施した。 【(生) 94.5%】	B	○来年度から始まる2年生の探究学習がより主体的な活動になるよう、準備体制を整えることができた。 ○多くの機会を捉えて、資格取得に向けての働きかけができた。コースの特徴など3年間を見通し、さらに意欲的に資格取得に取組むことができるよう働きかけを進める。 ▲多様な生徒や気象警報発表時等の学習支援への対応として、ICT機器の効果的な活用方法についての職員研修が必要である。	
	生徒が主体的に学ぶ「探究活動」の仕組みを構築し、実践的な学びを充実させ、課題解決能力を養うための仕組みを作る。	施策II-13	学校評価アンケート項目【生徒26】(89%以上の肯定的評価)				
	資格取得の目的や意義、目標を明確にし、合格のための指導体制を整え支援する。	施策II-14	学校評価アンケート項目【生徒25】(90%以上の肯定的評価)				
進路指導	キャリアガイダンスや土岐商WE P(インターンシップ)を通して考える機会を提供し、進路ノートを活用したLHRを充実させる。	施策II-13	学校評価アンケート項目【生徒15、保護者等17】(90%以上の肯定的評価)	・キャリアガイダンス、マナー講座、インターンシップ、卒業生と語る会等を実施し、学年に応じたキャリア教育を推進した。 【(生) 96.0%、(保) 74.9%】	B	○ガイダンス等を通して勤労観・職業観の高揚を図り、生徒が進路について具体的に考えききっかけとなった。 ○小テストと天声人語の継続的な実施は、生徒からも受験対策としても有効であったとの声が多い。企業からもこれらの取り組みに対して、受験時の結果と併せて評価をいただけた。 ▲保護者等を対象とした進路指導に関するアンケート項目において、『わからない』との回答が10%を超えた。保護者の方への進路情報の提供が課題である。	
	基礎学力の定着に向けた小テスト・外部模試への取り組みを充実させる。	施策II-8	学校評価アンケート項目【生徒24、保護者等18】(91%以上の肯定的評価)				
	文章力、表現力を身に付けるための作文模試や天声人語の実施と支援を行う。	施策IV-23					
生徒指導	安全確保を最優先に考え、生命を尊重する態度を育成し、規範意識の高揚のため、外部講師による講話や全校集会等を通じて、モラルやマナーについて呼びかける。	施策III-19	学校評価アンケート項目【生徒13、保護者等15】(80%以上の肯定的評価)	・生命の安全については例年通り推進することができた。特に自転車のヘルメット着用の推進を行うことにより、生命を尊重する態度の育成をはかった。 【(生) 95.3%、(保) 83.7%】 ・登校時の挨拶指導、定期的な身だしなみチェックを実施した。MSL活動を推進した。 【(生) 94.8%、(保) 84.3%】 ・年間10回の教育相談アンケートを実施し、生徒の悩みを打ち明けやすい環境づくりと組織対応に努めた。 【(生) 80.8%、(保) 71.5%】 ・生徒主導で生徒会行事を運営した。 【(生) 76.8%】 ・生徒が主体的に部活動に参加した。 【(生) 95.5%】	B	○交通安全への意識が向上し、ヘルメット着用率は向上している。 ○生徒の実態に即した指導として規範意識は高まった。 ○細かな悩みに寄り添った対応ができた。 ○各部活動において、生徒が主体的に取り組むことができるよう支援した。 ▲生徒の悩みを早期に発見し対応することができたが、悩みの内容が複雑化しており迅速な対応が求められる場面もあるので、全職員での協力体制を整える必要がある。 ▲保護者等を対象とした生徒指導に関するアンケート項目において、『わからない』との回答が多かった。いじめ対策や教育相談体制などについての情報発信に努めたい。 ▲生徒が主体的に生徒会活動に取り組みたくなるような生徒会運営を支援したい。	
	「挨拶」「身だしなみ」「遅刻防止」を重点とし、全職員で粘り強く指導する。	施策I-1	学校評価アンケート項目【生徒11、保護者等13】(80%以上の肯定的評価)				
	職員間における適切な生徒情報の共有と連携を密にし、研修会の実施や外部機関の連携を深め、アンケートから早期発見に努め、連携して対応する。	施策I-3	学校評価アンケート項目【生徒14、保護者等16】(95%以上の肯定的評価)				
	生徒会活動、部活動など年間を通じて、自主的、計画的に活動できるよう指導する。	施策IV-25	学校評価アンケート項目【生徒20・21】(90%以上の肯定的評価)				

来年度に向けての改善方策等

実施日：令和8年1月15日

- ・中学生及びその保護者へのタイムリーな情報発信については、本校HPとInstagramを連携させることにより、効率的な運用に取り組む。
- ・クラウド上でのデジタル媒体やICT機器を有効活用に向けて、職員自ら研修し更なる業務改善に努める。
- ・生徒の状況に応じた学びの充実を図るために、ICT機器の活用方法を学ぶ校内研修を行うなど、引き続き効率的な活用方法について研究を進める。
- ・多様な生徒や気象警報発表時等の対応として、学習支援の環境整備を推進する。
- ・三者懇談会等、保護者の方と対面でお話しできる機会を通じて進路情報のニーズを把握し、進路情報の提供に努める。
- ・多様化する生徒指導・教育相談事案に迅速対応できるよう職員の協力体制を整える。

学校関係者評価

実施日：令和8年1月21日

- ・少子化及び普通科志向の影響による定員割れの解消に、SNS(特にInstagram)は、中学生・保護者への効果的な情報発信を行ったことに一定の効果が出ると思われる。引き続き、志願者確保に向けた取組を継続していただきたい。
- ・生徒のあいさつやマナー、身だしなみなどの生活態度は地域から高く評価されており、学校の教育成果として認められている。
- ・学力や資格取得に加え、人としての規範意識や社会性を育成する教育が行われている点は、土岐商業高校の大きな特色である。
- ・英語をはじめとした基礎的なコミュニケーション能力の育成は、将来の進路や社会的自立に向けて重要であり、今後も継続が期待される。
- ・教職員の熱意ある取組が学校運営を支えている一方で、時間外勤務の増加には配慮し、持続可能な働き方を意識した取組が必要である。